

「晴耕雨読」

雨の日こそ読書を

市長 米本 弥一郎



梅雨の季節が近づいてきました。

雨の日が多くなるこの時季、読書をしてはいかがでしょうか。

学生時代、恩師から「自分は研究者なので、若い頃から専門書ばかり読んできました。ですから小説やノンフィクションの楽しみ方が分かりません。皆さんは、いろいろなジャンルの本を読んでください」とのアドバイスを受けました。それをきっかけに、在学中は「1年間に本を100冊読む」という目標を立て、あらゆるジャンルを読み、ほぼ目標を達成できました。

本を読んだ後には、必ず心の財産になるものがあります。読書は何度も何度も砂をすくって数粒の砂金を採る「砂金採り」に似ています。たくさん本を読むと、知識や教養が身に付くだけでなく、感性が磨かれ、創造力などを豊かにする効果や、心

のリフレッシュにもつながります。

市では、市民の皆さんが本と出会う場を設けています。図書館やおひさまテラスには、魅力的な本が充実しており、誰でも自由に本を選び、読書をして過ごすことができます。

また、子どもたちに本に親しんでもらえるよう、さまざまな取り組みをしています。赤ちゃんと保護者に絵本を通して触れ合う時間を持つてもらおうブックスタートや、図書館や子育て支援センターハニカムでは、絵本の読み聞かせや本の紹介などを行っています。

雨の日こそ、本と触れ合う絶好の機会です。市図書館に約10万冊、東部図書館に約30万冊、おひさまテラスには約6千冊の蔵書があります。たくさん本が皆さんをお待ちしていますので、足を運んでみてはいかがでしょうか。